

# 子どもたちが創った作品がCGになった!

「すごい!」子どもたちから、驚きの声が上がりました。教室のスクリーンには、これまでの図工の授業で子どもたちが表現してきた「かしの木の上の教室」が、コンピュータ・グラフィック(以下「CG」という。)によって、見事に映し出されています。子どもたちの目が釘付けになりました。

世田谷区立桜小学校の校庭には、都の文化財にも指定されている大きなかしの木があります。子どもなら、10人以上は楽に登ることができるくらい大きな木です。そこで、展覧会にむけて3年生が、図工の時間に「かしの木の上に教室を創るとしたら、どんな教室がいいか」というテーマで、絵や粘土を使って表現することになりました。さらに、その子どもたちのイメージを、この地域にある日本大学文理学部の情報システム解析学科4年で、夜久研究室の呉羽さん、鈴木さん、岸良さん、山澤さんの4人が、CGを使って立体化したのです。

CGを使って授業を行った、4人にお話を伺いました。



「最初は、正直、できるかなと思いました。」

## ◎話を聞いたときは、どんなことを考えましたか?

「自分たちの技術を生かすことができそうなので、面白そうだな、と思いました。その一方で、小学校の授業に参加するのは初めての経験だったので、始めはまったく感覚が分かりませんでした。正直、できるかな、という思いと、自分たちのやっていることが、小学生に分かってもらえるのかなという不安がありました。」

「子どもたちと接する中で、自分たちが忘れていたものを思い出す。」

## ◎実際に授業に参加し、子どもと接していく中で、その思いは変わっていききましたか?

「展覧会当日までに、2度ほど学校を訪問し、授業に参加して子どもたちが実際に絵を描いているところや、完成した作品の発表をしている場面を見せてもらいました。初めて学校に行ったときは、少し抵抗感があったのですが、子どもたちがすぐになついてくれたので、楽しくなりました。驚かされたのは、子どもたちの想像力がとても豊かだということです。自分たちでは考えつかないようなアイデアをどんどん出してくれます。とにかく、子どもたちの熱意と気力がすぐ伝わってきました。また、自由で素直に生きているという感じがして、今の自分たちが忘れていたもの、でも忘れてはいけないものを思い出すことができました。」

「自分も楽しみながら活動を。」

## ◎このような形で子どもたちとかがわって、感じたことはありますか?

「子どもたちが、私たちが創ったCGを夢中になって見てくれて、すごく喜んでくれた場面を見ることができて、やってよかったなと思いました。いままで、小学生とこのような形でかかわったことがなかったので、とてもいい経験になりました。取り組んでいくうちに、自分たちもとても楽しくなりました。このような活動は、楽しみながらやったほうがいいと思います。機会があれば、またやってみたいと感じました。」



## 4人が所属する研究室の、夜久竹夫 教授にお話を伺いました。



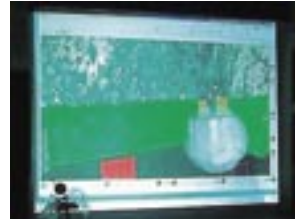
「このお話を聞いたときは、とてもいいことだと思い、学生たちに話をしました。このようなボランティア活動に取り組むことは、大学生にとっても、大変に有意義なことだと考えています。これからも機会があれば、学生たちには、どんどん参加してほしいと思っています。」

日本大学文理学部情報システム解析学科4年  
夜久研究室(夜久 竹夫教授)

呉羽 彬さん・鈴木 将功さん  
岸良 智さん・山澤 聡さん



全景です。  
木には梯子がかかっています。  
空には飛行機が。  
ズームしていくと...



教室の中です。  
右の円の中には、どの方向からでも観る事ができる未来型テレビがあります。

## コーディネーターが、大学と小学校を結びつける

この授業を行うことになったきっかけは、昨年7月に行われた、日本大学のオープンキャンパスに先立って開催された「実験フェア」で、4人が所属している研究室が、CGでアニメーションプログラムの展示を行ったことです。この展示会場には体験コーナーもあり、たくさんの小学生が集まっていました。この様子を見た、学校支援コーディネーターが、かねてから、CGを授業で活用することはできないだろうか、と考えていた桜小学校の図工の先生に相談し、夜久教授に正式に依頼に行ったことで、授業が実現することになったのです。

このように、コーディネーターの働きによって、小学校と大学が連携することで、地域の特性を生かした取組が可能になります。今回の活動は、小学生にも大学生にも、貴重で有意義な体験になりました。皆さんの地域でも、このような取組を広げてみてはいかがでしょうか。

## コーディネーターとは? (地域によって名称は異なります)

学校外部にある教育力を学校内外の教育活動に効果的に導入するために、学校と外部をつなぐ役割を果たしています。学校内にコーディネーターがいることで、教員はコーディネーターとともに授業を組み立て、実践に臨むことができます。